

◇ 総合人間科学部について

【総合人間科学部の構成】

教育学科、心理学科、社会学科、社会福祉学科の4つの学科から構成される。

【総合人間科学部の特徴】

総合人間科学部は、一人ひとりの人間を大切にす精神、人間の尊厳を重視する精神を育み、人間の尊厳実現のために貢献できる人材を育成することを目的としている。「ヒューマン・サイエンス（科学の知）」「ポリシー・マネジメント（政策・運営の知）」「ヒューマン・ケア（臨床の知）」の3つの知を育てるために、各学科の独自性を活かしつつ、他学部他科生も履修可能なカリキュラムが用意されており、1年次から段階的に履修する中で、専門性を深めるとともに、視野の広がりも得られるような工夫がなされている。

【総合人間科学部共通専門科目】

「総合人間科学入門」（春学期・2単位）
コーディネーター：栃本 一三郎
輪講（担当者）：未定

輪講とし、コーディネーターは学部長、4つの学科教員複数で担当する。

学部の理念、目的、学部を構成する各学科の特徴を理解するとともに、各領域のディシプリンからみた人間の尊厳への視点や実現のための方策などについて多面的に考察し、ひとりひとりが自ら考えるきっかけを作ることを目的とし、各領域の協働による総合人間科学の構築のための入門講座としている。学部創設の2005年度より開講しており、2005年度入学生から2008年度入学生は必修科目である。このため、05年次、06年次、07年次、08年次生は、この単位は卒業の必須要件となっている。

なお、09年次生以降については、選択科目*である。

* 選択科目とは、これらの科目を履修した場合には、各学科の自学科選択科目として扱う。

各学科の履修科目については、それぞれの学科のページを参照し、各学科のガイダンスに従うこと。

「学生主体の留学生支援プログラムの創成（2）」（春学期・2単位）
担当：横山恭子、杉村美紀

2010年度教育イノベーションプログラムとして開講するものである。昨年度は、留学生、外国人学生、帰国生などが日本の中で大学生活を送っていく上で、必要なスキルや情報を共有し、相互の文化的背景や言語・コミュニケーションの理解を深めることを目的とし、学生自身が相互に理解を深めながら、自分たちに必要な支援のあり方を模索して『留学生のためのサバイバルマニュアル』を作成した。今年度はこれをさらにバージョンアップさせることを目標とし、あわせて留学生支援や異文化交流に関する理論的検討も行う。

今年度初めて参加する学生を歓迎するが、昨年度とは内容を変えるので、すでに履修済みの学生も歓迎する。日本人学生、帰国生、留学生を問わない。昨年度は日本語での授業のみであったが、日本語に自信のない学生も参加してくれるのであれば、初回の授業の際に授業の運営方法について十分相談し、英語のグループを作成することも考慮しながら進めていく予定である。

選択科目*である。留学生のみならず、外国人学生、帰国生、および、異文化理解・支援の問題に関心をもつ日本人学生も履修可能である。選択科目とは、これらの科目を履修した場合には、各学科の自学科選択科目として扱う。

各学科の履修科目については、それぞれの学科のページを参照し、各学科のガイダンスに従うこと。